

友人のYoshidaさんが書いてくれた原稿掲載します。インドネシアにいらっしゃるとのことでしたので、FACEBOOKで依頼したら、快く書いてくださいました。便利な時代になりました。会員の方ではありませんが、これから海外生活を送られる方のヒントになると思います。

編集委員 日野

### 異国の地での生活経験。

短期出張でのイランを皮切りに数年にわたり、アジア中東数カ国で生活を送らせていただける機会に恵まれました。そして、今なお海外での生活を継続しております。今日に至るまで不安や苦勞などいろいろとありましたが、印象に残っていることを綴らせていただきたいと思います。

#### やはり健康第一

まず、最初に印象に残っていることは、駐在生活が始まって、ひと月が経過した頃でしょうか、風邪をひき高熱を発しました。当時はまだ生活や現地での食事にも慣れておらず、ハンバーガを買うことですら緊張。また会話も現地スタッフとも十分なコミュニケーションがとれないレベルでした。やはり、そのような事でのストレスがたまっていたのでしょう。

いま思えば、シンガポールでしたので、高度の医療が受けられ、日本人向けの医療機関（日本の医師免許所持）も複数ありますので、まったく心配ありませんでした。しかしながら、当時は非常に不安な思いをしました。

このとき経験から現在も体調の管理には、気を配っております。無理をしないこと。必要な休養は取ること。それでも時折体調を崩すこともありますが、必要に応じて、日本から持っていった薬を服用したり、現地の医療機関にお世話になったりしています。

しかしながら、居住地によって受けられる医療レベルの差があるのも事実です。各国首都圏では比較的良好な医療環境にあるのですが、地方にいくとやはり医療水準が下がります。

高度医療のある都市部では、親知らずを抜いたこともありますし、知人は足の付け根の骨をおり、その部分を金属の人工骨で置換する手術を受けた人もいます。

反面、地方でつらい思いをして、医者に行ったら風邪といわれ、市販の（それもすでに持っているものとおなじ）解熱剤が出されただけだった。

歯の詰めものの加工技術が低いので、日本での処置を推奨された。また、現地ワーカーの雇い入れ時健康診断を町一番の病院でおこなったにも関わらず、半年以内にガンで死亡した例もあり日本ではあまり考えられない局面に面した経験があります。

しかし、地域特有の病気（デング熱・アメーバ赤痢など）は、日本では症例が少ないため現地の医療機関のほうが適切な対応がとれる場合もあるそうです。

#### 日本と極端に違う点。

やはり、一番大きな違いを感じるのは宗教面でしょうか。過去の滞在国は、世界最大のイスラム教徒を要

する国インドネシア、世俗的主義といわれるトルコ共和国、メッカのあるアラブに位置するアラブ首長国連邦などイスラム教を主とする国を経験しました。まず、信仰があって当たりまえという点から、大きな違いがあります。官公庁に提出する書類に宗教を報告する欄があるものもあります。

同じイスラムとはいっても、国によって随分違うものだなという面と同じだなという面双方の印象をもっています。同じ面は、豚を食べないこと。左手が不浄の手であること。等々。おそらくコーランに記されていることと思います。アルコールに関しては、国によって違うようです。実際は禁忌ですが、トルコ、インドネシアには、自国酒造メーカーが有り、自国産のビール、ワインなどがあります。当然、飲まれる方もいるようです。まあ、飲まれる方はアラブでもいるようですが。

断食期間は、やはりそれ以外の時期と変わりますね。日中が断食期間であること。断食明けの休暇があることは、どの国も同じでした。断食に対する強制は中東が厳しかったように感じます。夜間も娯楽を制限している印象を受けました。反面、断食明けの夕食をパーティーのように楽しむトルコが印象に残っています。まあ、断食されている方もすくなく。飲食店も昼間普通に開いていましたので、世俗主義といわれる所以かと思えます。

その他驚いたことは、UAEのビーチで、家族用と男性用にわかれているのはびっくりしましたね。また、イランで、プールが男性の時間と女性子供の時間にわかれているのにびっくり。確か、小学校低学年の男の子ですら、たとえ母親がついていても女子の時間にはもう入れないとのことでした。

また、国によってはモダンモスリムなどと称して、宗教的禁忌事項を全く気にしないひともいるから不思議ですね。

## 言語と民族性???

ムシムシケラ・ティダアパアパ・プロブレムヨック・ノープロブレムらー。言語は違いますが、ほとんど全部同じ意味です。直訳すると、どうやら、“問題ない”といった意味のようですが、大問題でも、ほんとにささいな問題でも、これら言葉が聞かれます。

ただどうやら、日本語の“問題ない”とは少し意味が異なるようです。

経験上、斯く斯くジカジカこういった状況で非常に困っているという、これらの言葉が答えとして戻ってきます。

日本の場合、問題ありません。このような対策が、、と続くことを期待したくなりますが、大抵の場合、“問題ない”。それだけでおしまい。それ以降は続きません。いや、だから、こういう問題があって、私は困っています。問題ありません。いやだから、、、、と何回会話のループが回ったことか、でも、この点に関しては意外とこれらの国に共通点があるように感じます。要するに、深刻さが理解されていない。また、考えていない。お気楽であるなどの印象を受けます。これらの言葉は、ストレスに感じました。しかしながあまりに当たり前に使われるので、逆に日本だけが特異なのかも感じております。

同義語のタイ語でマイペンライという言葉もあるようです。先の言葉は、順にアラビア語・インドネシア語・トルコ語・シンガポールで使われる英語です。

## 最後に食事

KFCにご飯がついてきたり（インドネシア）、砂糖ミルク入りコーヒーのスタンダードであったり（シンガポール・インドネシア）、日本メーカーの缶の緑茶が甘かったり（シンガポール）、チャイーお茶がないと暴動が起きかけたり（トルコ）、ラーメンにスパゲティの麺が使われていたり（イタリア）、ひまわりの種を食べてみたり（トルコ）、いろいろありましたが、食はやはり生まれ育った地のものが一番おいしいですね。

これまで生活の中で、いろいろなことを学ぶことができました。今後もまだまだいろいろと学ぶことができそうです。くたびれそうだなと思う反面、楽しみでもあります。機会があれば、東欧などでも仕事してみたいですね。できれば治安のよいところで。

お付き合いいただきまして、ありがとうございました。

YOSHIDA KIYOSHI